

疑似葉腐病(春はげ症)

●日植防(高知)、香川大学農学部
1992年
品種:コウライシバ、ノシバ
散布:10/27, 11/10 水量 10/m²
調査:4/13

供試薬剤	薬量(g/m ²)	パッチ面積率(%)
ブルーデンス水和剤	2	5
無処理	—	35

●西日本グリーン研究所 1992年
品種:コウライシバ
散布:11/17, 12/1, 15 水量 10/m²
調査:3/30

供試薬剤	薬量(g/m ²)	病斑面積率(%)
ブルーデンス水和剤	2	0
無処理	—	65

疑似葉腐病(象の足跡)

●東日本グリーン研究所 1993年
品種:ノシバ
散布:8/16 水量 10/m²
調査:9/10

供試薬剤	薬量(g/m ²)	病斑面積率(%)
ブルーデンス水和剤	2	0.5
無処理	—	7.5

●西日本グリーン研究所 1995年
品種:ノシバ
散布:10/2, 16 水量 10/m²
調査:10/30

供試薬剤	薬量(g/m ²)	発病面積率(%)
ブルーデンス水和剤	2	0.8
無処理	—	6.2

日産ブルーデンス水和剤の適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	使用方法	総使用回数		
					本剤のみ	イプロジオン剤	ホセチル剤
芝	ベントグラス	500倍	発病初期	10/m ² 散布	8回	8回	8回
	疑似葉腐病(イエローパッチ)		秋~春期				
	ヘルミントスボリウム葉枯病		発病初期				
	疑似葉腐病(象の足跡)		休眠期前				
日 本 芝		疑似葉腐病(春はげ症)					

△効果・薬害等の注意

- 本剤の所定量を所要量の水にうすめ、よくカクハシしてから散布してください。
- 散布液調整後は速やかに使用してください。(分解)
- ボルドー液、石灰硫黄合剤、および葉面散布肥料との混用はさけてください。
- 無機銅剤との混用、近接散布はさけてください。(薬害)
- ベントグラスの疑似葉腐病(イエローパッチ)に使用する場合、発病前から予防的に散布してください。また、なるべく晴天の日に散布し、散布液が芝の葉上で氷結することのないように注意してください。
- 過度の運用をさけ、作用性の異なる薬剤と輪番で使用してください。(耐性菌出現回避)

△安全使用上の注意

- 誤飲、誤食に注意。
- 粉末は、眼に対して刺激があるので、散布液調整時には保護メガネを着用し、薬剤が眼に入らないように注意してください。
- 眼に入った場合には、直ちに水洗し眼科医の手当てを受けてください。
- 散布時は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用してください。
- 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして衣服を換えてください。
- 作業時の衣服などは他と分けて洗濯してください。
- かぶれやすい人は取扱いに十分注意してください。

保管……高温あるいは吸湿しやすい条件下では、物理的性状が劣化するおそれがあるので、直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

ラベルをよく読む。記載以外には使用しない。小児の手の届く所には置かない。空袋は圃場などに放置せず適切に処理する。

取扱い

 日産化学工業株式会社
農業化学品事業部 緑化営業部

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-1 (興和一橋ビル)
TEL. 03-3296-8021 FAX. 03-3296-8022

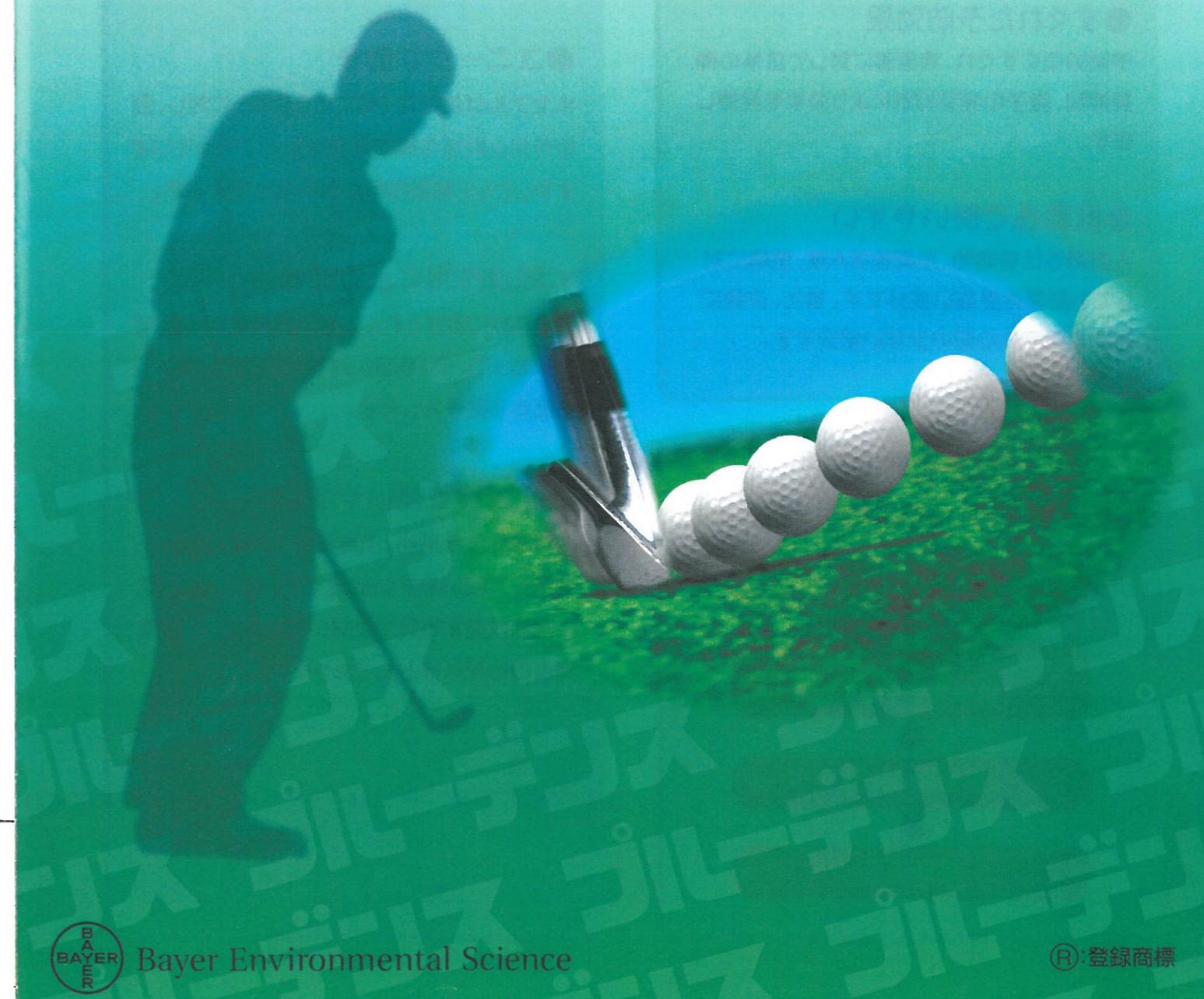
日産

グリーン総合防除型殺菌剤

ブルーデンス® 水和剤

(イプロジオン:17.0% ホセチル:40.0%)

芝の病気にナイス・アプローチ。



Bayer Environmental Science

®:登録商標

「イプロジオン+ホセチル」の相乗パワー、芝の殺菌剤プルーデンス水和剤

イプロジオンの特長

●幅広い防除範囲

イプロジオン水和剤は防除範囲が広く、すでに果樹・野菜の66病害に使用されています。

●芝病害に高い効果

芝の重要病原菌であるリゾクトニア菌、スクレロチニア菌やヘルミントスパリウム菌に効果があります。

●すぐれた予防効果

予防効果にすぐれ、病原菌に対して菌糸の伸長抑制、胞子の発芽抑制により効果を発揮します。

●低毒性で使いやすい

人畜毒性は普通物、魚毒性はA類、環境に対しても影響の少ない成分です。また、作物に対する薬害の心配の少ない成分です。

自己防衛機能*

植物が本来もっている病害に対する自己防衛機能

病原菌が植物体内に侵入開始

↓
植物体内でファイトアレキシン
(抗菌物質)の生産

↓
菌の侵入阻止

↓
発病停止

ホセチルの特長

●的確な効果

ホセチル水和剤は果樹・野菜類のべと病、斑点落葉病などに使用されています。

●すぐれた浸透移行性

ホセチルは散布後速やかに主として茎葉部から吸収され、短時間のうちに根から葉先まで芝全体にゆきわたります。

●ユニークな働き

ホセチルは病原菌(特にそう菌類)に対し、直接作用と間接作用の両面を併せもっていますが、とくに間接作用による働きが大です。

<間接作用による働き>

植物体内に吸収されたホセチル成分は、植物が本来もっている「病害に対する自己防衛機能*」を高める働きをします。

●低毒性で使いやすい

人畜毒性は普通物、魚毒性はA類に相当し、低毒性で使いやすい成分です。また、病原菌に直接作用する面が少ないとから、耐性菌発生の心配はほとんどありません。

プルーデンス水和剤の作用性

プルーデンス水和剤は芝に散布されると

●イプロジオン成分は主として芝の表面に付着し、病原菌の侵入を阻止します。

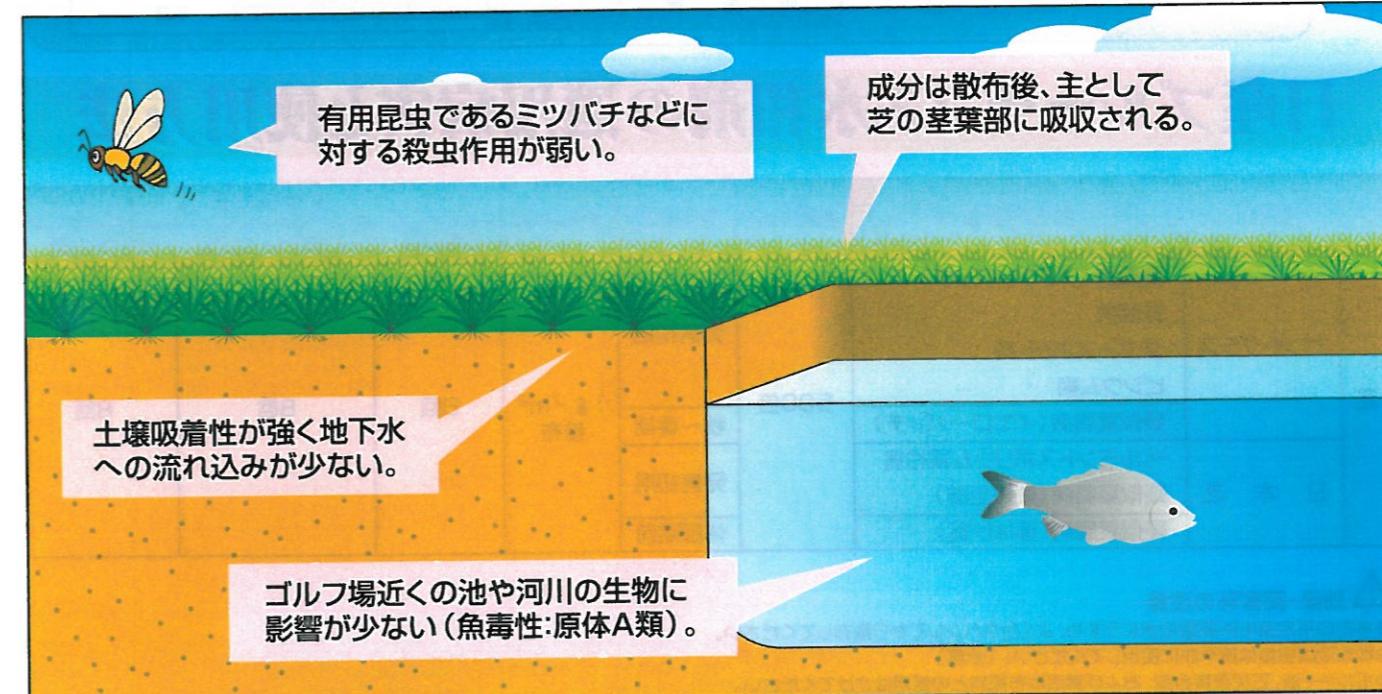
●ホセチル成分は芝の茎葉部から吸収され、根から葉先まで上下に短時間にゆきわたります。

●イプロジオン成分は直接病原菌に作用します。

●吸収されたホセチル成分は芝の自己防衛機能を高め、病原菌の侵入に備えます。

●適用病害が広いのでグリーンの総合的な防除ができます。

周辺環境に対する影響



プルーデンス水和剤の散布時期(矢印↓)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
病害発生時期	疑似葉腐病 (イエローパッチ)	●	●	●									
	葉腐病 (ブラウンパッチ)					●	●	●	●	●	●	●	
	赤焼病						●	●	●	●	●	●	
	ビシウム病		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	ダラースポット病				●	●	●	●	●	●	●	●	
日本芝	ヘルミント スパリウム葉枯病				●	●	●	●	●	●	●	●	
	疑似葉腐病 (春のはげ症)					●	●	●	●	●	●	●	
	疑似葉腐病 (象の足跡)									●	●	●	